



37

地域と協力し合い、 信頼される学校

開北小学校

開北小学校は、昭和49(1974)年、旧石巻市で当時21番目の小学校として誕生しました。校舎のすぐ西側には消防本部庁舎があり、付近は、毎年8月1日に行われる川開き祭り花火大会の会場としても知られています。この地区はかつて、水田や畑などの農村地域でしたが、宅地開発により住宅地が多くを占め人口が急増し、開校当時は約600人、数年後には千人を超える児童が在籍していました。現在(6月1日時点)の児童数は430人と、ピーク時の半数以下に減少していますが、ここ数年は横ばい状態で推移しています。



▲まち探検

開北小学校の特徴的なところは、地域の方々との連携が強く、学校活動にも積極的に協力してもらえているという点です。中でも、自分達の生活している地区を歩き、歴史や文化を学ぶ「まち探検」では、保護者の方々も引率してくれるおかげで行動範囲も広がり、子ども達も自分達の行きたい場所に行って体感できるとあって学習意欲の向上につながっています。ほかに、図書室の環境整備や力又一体験での支援など、地域の皆さんとの連携は、学校にとっても大きな財産です。

学校側でも、相互の関係が一方通行とならないよう、今年の卒業生が付近の沿道にチューリップの球根を植えるなど、地域になんらかの貢献をしていきたいと考えています。

これからも開北小学校では、相互の連携を深め、地域の良さを生かしながらの活動を中心に、地域から信頼される学校を目指します。



▲卒業生達がチューリップの球根を植栽

今月の表紙から

ポン菓子とは、「ドッカーン」という音から「ポン菓子」や「トン菓子」と呼ばれるようになり、地方や年齢層によつて「せん」「バクタン」「こめはぜ」などさまざまな名前と呼ばれています。

大正時代から昭和中期ごろまで、定番のお菓子として子どもに人気があり、子どもが集まる広場などに商人がリヤカーに取り付けた小型の釜を自転車などで引っ張り、子ども達の目の前で作ってみせるということがよく行われていました。その後、軽トラックなどに釜を積んだ業者も現れましたが、都市化が進み、住宅街で大音響を響かせにくくなったことや後継者不足もあってか、しだいにその数が減っていきました。現在では、イベントやフリーマーケットなどで

行われる程度になり、ポン菓子の製造を見ることは珍しくなっています。

今回は、5月に行われた「サン・ファン祭り」で実演販売を行い、30数年、ポン菓子を作っている石垣さんを取材しました。

石垣さんは、サン・ファン祭りのほか、鹿島はやし山車祭りやかなん市民まつり、ももももランド秋まつり(登米市津山)などのイベントに出向き、独特の「ドッカーン」という音を会場に響かせています。また、上品の郷などでは、石垣さんのポン菓子が店頭に並んでいます。

石垣さんに話を伺つた材料は米とマカロニで、米は私のところからたものを使っています。年配の方から懐かしいと言われること、子ども達が、物珍しいようで、目を輝かせている姿が、この仕事をやって良かったなあと思うときです。作業をこなしながら笑顔で話していました。



石垣 恒雄さん
(河南広瀬地区)



▶石垣さんの奥さんが販売担当です



▲加熱中!10分から15分で「ドッカーン!!」

なぜ大きくなるの?

米、麦などの穀類には、わずかですが水分が含まれています。穀類を密封したものに入れ、加熱すると気圧が高まり、それを一気に解放すると、細胞の間にあった水分が瞬時に気化して、細胞を破壊し膨張します。「ドッカーン」の時の白煙は、水蒸気です。

どのくらい大きくなるの?
米の場合には元の10倍程度にまで膨らみ、形状は原料をそのまま大きくした形になります。



サークル仲間

なかま ④③

孤立せず、お互い支え合いましよう

石巻市精神障がい者家族会さくら会

さくら会は、精神障がい者を抱える家族とサポートをする方が設立し、平成19年に自主的な活動が始まりました。現在、会員27人、偶数月の第三日曜日午後1時30分から、市保健相談センターで活動しています。

主な活動は、会員相互の情報交換の場となる定例会や移動研修会、他市町の家族会との交流会、家族がいきいきするための親睦会などが行われています。

なかでも、楽しみにしているのが8月に行われる会費1,000円で飲み放題、食べ放題の「ビアパーティー」です。料理は、会員が腕を振るって作り、カラオケや踊りなどが披露され、大いに盛り上がります。



取材した日は、手作りのいなりやがんずきなどが並び、定例会が行われました。「ここに来るとみんなから元気がもらえて、



がんばるぞ」という気持ちで家庭に戻れます」と会員の方が言うように和やかな雰囲気の間となつていきます。笠神会長さんは「家庭での悩みを話す」と、アドバイスしてもらいとてもためになります。同じような悩みがあることにも気づくようです。

市内には、精神障がい者を抱えた家族の方がまだまだいますので、その方々が孤立せず、お互い支え合えるよう、さくら会の輪を広げていきたいですね。ぜひ、気軽に連絡してください」と呼び掛けていました。

※随時、会員と賛助してくださる方を募集中です。

◎ 笠神会長さん ☎ 96-108339 または福原さん ☎ 95-5480まで

にぎやか家族 ④⑤

あけぼの地区



手前から、理央くん、英廣くん、悠希くん

《将来の夢&特技・好きなこと》

前田 英 ひろ 大工さん
 悠 希 花の水やり上手とキャッチボール
 理 央 歩くの大好き~

<両親から>
兄弟仲良く、健やかに、まっすぐに育ててください。

にぎやか家族 ④④

河南和渕地区



写真左から、優大くん、ほのかちゃん、康生くん、こころちゃん

《将来の夢》

高橋 こころちゃん (8歳) 歯医者さん
 康 生 くん (4歳) 消防士さん
 優 大 くん (2歳) 消防士さん
 ほのかちゃん (1歳) かわいいお嫁さん

<両親から>
夢を持ち、素直にたくましく育てほしい。